



白鳳点描

郷土で育つ子どもたち

校長 川本 幸則

4年生が社会科の学習で、校区の「棒の手保存会」の方から演武や講話の出前授業をうけました。棒の手にはいろいろな流派があり、白鳳小学校区の東軍流と直心我流の二つの流派にお願いして、年ごと交互に出前授業を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、お祭りが中止されたり、縮小されたりしたことにより、棒の手を含め郷土芸能を後世に伝えるための道筋に課題が生じていると聞いています。本校でも、郷土に伝わる「ざい踊り」や「棒の手」について学び、郷土について知ること、郷土を愛し、誇りに思えるよう努めていますが、それぞれの保存会の皆様は苦勞されているようです。

インターネットで尾張旭市の棒の手を調べると、「文化財ナビ愛知『尾張旭市の棒の手』」には以下のような記載があります。



無二流は水野又太郎良春とその一族の修験者たちによりもたらされたものである。東軍流は、印場村薬師堂の修験者塚本伝寿が、名古屋出来町の平岩清伝に学び、貞享元年（1684）に棒目録を受けたことに始まる。その特色は呪術性を持たない奉納芸能として武芸的な振り付けを行ったことである。直心我流は八木弥市郎が猪子石村の修験者から免許を受けて流派を創始した。直師夢想東軍流は庄中の森下里右衛門が出来町から、文政4年（1821）に伝えた。この頃から、印場村では集落や血縁などにより、いずれかの流派に属することになったと言う。（一部抜粋）

社会科の学習では、まず3年生で、身近な郷土である尾張旭市について学習し、学年が上がるにしたがって愛知県、日本、世界と対象が広がっていきます。郷土についての学習から始め、次第に視野を広げていきます。また、総合的な学習では、地域の催しに参加し学ぶことをすすめています。様々な機会、郷土への愛着と誇りを育て、地域の一員として成長してほしいと思っています。

～～5年生が野外活動に行ってきました～～～

9月21日（木）・22日（金）の1泊二日で、付知峡の森林キャンプ場にて実施しました。天候が悪く、計画を変更しながらの実施でしたが、計画した内容はほぼ行うことができました。自然を感じ、友との友情を深め、楽しい2日間であったと思います。本物の経験が、子どもたちを大きく成長させたと感じています。

